

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表（令和2年度分）

法人名	社会福祉法人 豊生会	代表者	佐藤 眞紀男	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で「通い」を中心として一人ひとりの様態や希望に応じて「訪問」や「泊まり」を組み合わせ、24時間365日切れ目のないサービスを提供いたします。利用者、家族が共に安心した生活を継続できるよう支援しています。また、地域での行事や催し等の参加や、ボランティアによる慰問も活発に取り入れており、増設している地域交流ホールにてカフェの開催を行い、地域の方々との交流を楽しめるような環境作りを心がけております。
事業所名	小規模多機能 ふれ愛の里	管理者	齋藤 あつ子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	5人	0人	1人	1人	0人	4人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	サービス内容を確認する機会を設け、業務改善が必要などがないかを定期的に話し合う。	朝のミーティングやカンファレンスで話し合いを多く設けている。指示書や連絡ノート等の活用をし、職員間での情報共有に努めることができた。	・職員はそれぞれしっかり取り組んでいる様子が伺える。	今後も地域の資源を利用し、日々のかかわり方で変化に気づき、ニーズに合わせて「通い」「訪問」「宿泊」の提供を行い、柔軟な支援を行っていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	環境整備は継続的に行い、清潔面や事故防止に努める。事業所の入口を分り易くすることを、法人と検討していく。	環境整備を定期的に行い、清潔保持、事故防止が保たれている。	・玄関にはカギはかけておらず、自由に入出入りできるようにしている。玄関のチャイムで職員が対応している。	除雪に関しては降雪時期に入る前に念入りに業者と打ち合わせを行い、環境を整えていく。
C. 事業所と地域のかかわり	現在は新型コロナ感染防止の観点からイベント参加を自粛しているが、運営推進会議委員から情報を収集し、参加できる地域の行事やイベントに参加していく。	コロナ禍ではあるが、町内で開催する行事に参加することができた。参加した行事では必ず挨拶をさせていただき事業所の名前を覚えていただく機会になっている。年に一度の作品展示会では、事業所のパンフレットを置かせていただいている。また、スーパー、銀行、コミュニティー等に、まるっとカフェのチラシを掲示していただいた。	・明るく挨拶をしてもらっている。 ・業種が沢山あるためしっかり把握するのは難しいが、介護施設だと認知されている。	今後も運営推進委員や町内会と連携を取り、細かい情報を共有し地域との関わりを広げていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	事業所内のみでの支援に限らず、広い視野を持ち、拡充できるよう取り組んでいく。	地域包括支援センターに相談をし、必要なことは町内会長や民生児童委員につなげ情報交換をしている。近隣の医院や薬局、地域住民と連携できている。	・病院やスーパーで利用者と一緒にいるところを何度か見かけている。地域の中で支えていることが分かる。	今後も地域の方との情報交換を行っていき、連携を取る。

<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域の心配な方等の事例検討については、地域支援センター等と連携を図りながら、必要な方については、事例検討し支援に繋げていく。</p>	<p>今年度はコロナ禍の影響で、報告書の確認、コロナウイルスの感染防止、ワクチン接種の意見交換が多く挙げられた。地域の心配な方への予約やワクチン接種に関しての支援内容を報告できた。委員の方々からの情報も多く挙げられ、相談に活かすことができた。</p>	<p>法人のコロナ感染防止対策の情報交換が役にたった。また、施設での感染防止対策で難儀していることが分かった。</p>	<p>今後も情報交換を行い、地域の問題点や支援が必要な方の把握を心がける。</p>
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>水害の避難訓練については、法人内でしっかりとした計画を立て、運営推進会議委員のご意見を伺う。</p>	<p>コロナ禍ではあるが防災訓練を行うことができた。自家発電の実施訓練を全員に行った。避難場所の確認として、城南坂ウォーキングに参加することができた。</p>	<p>利用者を誘導して移動するのは大変なことだと感じた。</p>	<p>防災計画は継続し、コロナ禍ではあるが、地域の方の協力を受けながら行いたい。</p>

